

会議記録簿

件名	令和7年度第5回恵庭市生涯学習推進協議会 (社会教育委員の会議・公民館運営審議会 合同会議)		
日時	令和7年10月22日(水) 14:00～16:10	会場	市民会館(大会議室)
出席者	生涯学習推進協議会委員 佐藤、松田、水野、茶園、根深、神田、八木橋、吉田、大塚、渡辺、徳家、野藤、藤岡 (欠席者)井上、高橋、中山、平井、安中、熊野、小川原 市教委 ＜社会教育課＞ 黒氏課長、津田主査(社会教育主事)、飛弾野主事	人数	委員 13名 市教委 3名 計 16名

概

要

1. 開会

2. 会長挨拶

松田会長より挨拶

3. 【議題】

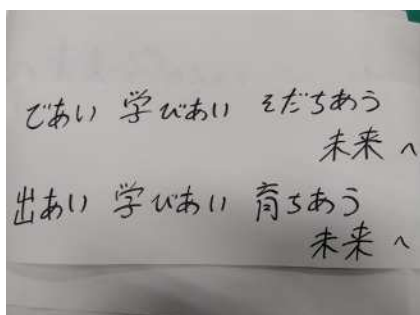
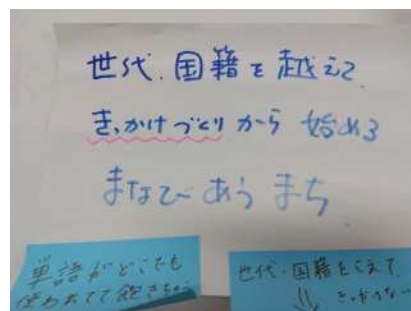
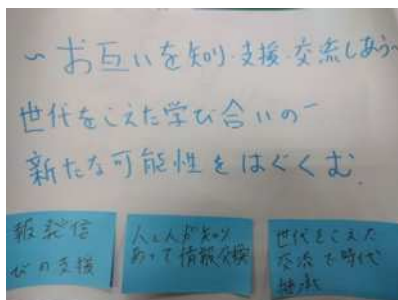
(1) 第6期計画の基本理念(この計画の目指すもの)とは？

(熟議テーマ) 基本目標(案)について検討しよう！

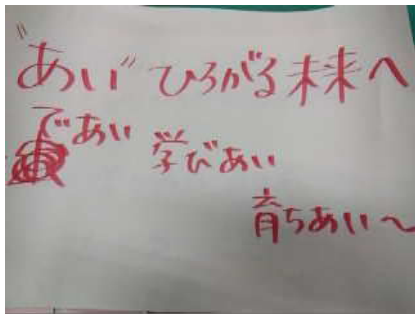
- ・4回までの協議を踏まえて(委員のグループワークから)「生涯学習は“自己学習”だけでなく、人とのかかわり学び合うことを通じて、今まで知らなかったことや感情を知ることができ、新しい自分・新しい世界へと広がっていく点が大切」という意見が共通
- ・事務局考案の基本理念(案)を基に、委員の皆さんでグループワークを行い、基本理念を決めていく。

➤それぞれのグループワークの意見を出し合い、参加者全員でどの基本理念がいいかを話し合った
「あい ひろがる未来へ ～であい 学びあい 育ちあい～」に決定

グループワーク案▼



基本理念▼



(2)生涯学習計画における評価の観点とは？

(熟議テーマ) この計画の成果とはなにか？

その成果を確認するために、どんな手法があるか？

グループワークの様子▼



○グループワーク意見交換結果

- ・点数での評価ではなく、評価委員が感じた意見・行政側との対話での評価が必要だと感じる。
- ・現行の事業評価は、担当課と委員との認識のずれを感じる。生涯学習の観点でのアドバイスと担当課の考える事業の目的とでずれてしまっている。
- ・一度、担当課と評価委員でワークショップを行い「生涯学習」とは何かを考えることで、事業評価に当事者意識を持ってもらうのはどうか。
- ・定性的評価というのは難しく、事業評価をさらに外部の人に評価してもらうことで、定性的評価を依頼するのもいいのではないか。
- ・事業評価を行うことで見たいのは「地域の変化」だと当時の事務局が話していた。「地域の変化」を見るにはたくさんの情報が必要であり、参加者のアンケートやワークショップが必要だと感じる。現在は評価委員がそれぞれ評価した事業を担当課と対話しているが、恵庭の地域を大きく見るワークショップが必要で、数値ではなく、言葉での評価が必要。
- ・事業評価が、点に見えてしまい、市全体として考える必要があるのではないか。
例えば、マップのような形で、それぞれが行っている生涯学習を出し、「であい、学びあい、育ちあい」の観点から評価していくのはどうか。可視化し、共有することで、積み上げていくと恵庭市全体の変化が分かるのではないか。
- ・「であい、学びあい、育ちあい」を色分けし、であいの観点であれば、どの事業があり、行政や他の事業との繋がりがあるのかが分かるようになったらいいのでは。

以上